

【専門科目領域/専門科目群/看護の基本】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
看護援助方法論Ⅴ		必修	1	2	前期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
窪川 理英 他	404	r.kubokawa	火曜日 12:00～13:00		
授業の目的・概要	看護援助方法論Ⅴでは、既習の看護援助方法論Ⅰ～Ⅳを活用し援助する方法として「看護過程」を学ぶ。看護過程では、対象者を身体的・精神的・社会的の各方面から検討し日常生活支援を考え、更に疾病を持った患者として身体機能の構造や役割を基本に病理的状態の改善方法を考えアセスメントする。アセスメントする方法の一つとして、ヘンダーソンの14の基本的看護の構成要素を軸に対象者の看護問題を考え、看護問題解決のために既習の看護援助方法を実施し、一連の看護過程を理解する。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	既習の学習を活用、特に疾病治療論の知識は必須				
教科書	・ヘンダーソン看護論と看護実践への応用 /編著:金子道子 /照林社 /2019 ・系統看護学網座専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② /著:有田清子 他 /医学書院 /2020年 ・看護の基本となるもの /著:V.ヘンダーソン,訳:湯橋ます /日本看護協会出版会 /2016年 [3冊指定]				
参考書	特になし				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	看護過程演習を行い「看護」の過程を述べるができる。		NS(3)		
②	V.ヘンダーソンの基本的看護の構成要素に沿って対象者のケアを考えることができる。		HSU(1)(2)(3).NS(3)(4)		
③	既習の知識をかつ油脂事例の看護問題を考えることができる。		HSU(2).NS(4)		
④	看護過程の各段階に沿った記録ができる。		NS(4)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	看護過程の概要を学ぶ。事例提示	講義	(予習)教科書の精読(復習)課題を通して復習する。	1	
2	事例1の常在条件をアセスメントする。	講義・演習	(予習)常在条件アセスメント	1	
3	事例1の病理的状態をアセスメントする。	講義・演習	(予習)病理的状態アセスメント	1	
4	14 基本的看護の構成に関する常在条件を考える。	講義・演習(PBL)	(予習)14 基本的看護の構成要素に関する常在条件を考える。	1	
5	14 基本的看護の構成に関する病理的状態を考える。	講義・演習(PBL)	(予習)14 基本的看護の構成に関する病理的状態を考える。	1	
6	看護問題の抽出	講義・演習	(予習)看護問題を考える。	1	
7	看護目標の設定	講義・演習	(予習)看護問題に沿った看護目標を考える。	1	
8	看護計画立案	講義・演習	(予習)看護問題を解決できる看護援助を考える。	1	
9	看護計画の実施	講義・演習	(予習)援助方法を考える。	1	
10	看護計画実施後の評価・修正	講義・演習	(予習)実施した記録を考える。	1	
11	事例2の看護問題を考える。	講義・演習(PBL)	(予習)事例2の看護問題を考える。	1	
12	事例2の看護援助を考える。	講義・演習(PBL)	(予習)事例2の看護援助を考える。	1	
13	事例2の看護援助の演習発表	講義・演習(PBL)	(予習)事例2の看護援助実施の準備	1	
14	事例2の看護援助の演習発表	講義・演習(PBL)	(予習)事例2の看護援助実施の準備	1	
15	看護診断について学ぶ。	同時双方向型授業	(予習)看護診断について	1	
試	定期試験	達成度評価・評価のポイント参照			

【専門科目領域/専門科目群/看護の基本】

		達成度評価						
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
総合力指標	知識・技術力	60	0	10	30	0	100	
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	0	60	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	0	10	0	0	10	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	30	0	30	
問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0		
評価のポイント								
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点					フィードバックの方法	
試験	①	✓	筆記試験を行う。 看護過程に必要な基本知識を問う。					試験終了後、テスト解答の説明
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
レポート	①							
	②							
	③							
	④							
成果発表	①		事例に対する看護援助方法展開の発表を行う。					発表に対する評価
	②	✓						
	③	✓						
	④							
ポートフォリオ	①	✓	開講中に提示された事例に対する看護過程の展開を、順次課題レポートとして提出する。提出期限の厳守など取り組む姿勢を養う。					提出状況の確認 課題レポート添削後返却
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
その他	①							
	②							
	③							
	④							
備 考								
他 担 当 教 員	坂本文子、溝口孝美							
教員の実務経験	この科目は、担当教員の20年に及ぶ臨床での経験を元にして、授業に現在の看護現場の移り変わりを組み入れることで、今後の臨床現場で必要とされる知識の習得を目指す。							
実践的授業の内容	アクティブラーニングにより、学生自ら提示された課題に取り組み、自ら看護の問題を探索する。また、看護師役、患者役の模擬体験を行い実践により近い学びに近づける。							
そ の 他								